

議 事 録

会議名	令和4年度寒川町社会教育委員会議第2回図書館部会		
開催日時	令和4年8月25日（木）午後1時30分～午後3時05分		
開催場所	寒川総合図書館 3階 会議室		
出席者名、 欠席者名及び 傍聴者数	出席者：仲田委員(部会長) 倉本委員(副部会長) 是枝委員 澤田委員 欠席者：大野委員 事務局：高橋教育政策課長 山口教育政策課副主幹、小林教育政策課主査 指定管理者：岩淵総合図書館館長 高橋(株)図書館流通センターエリアマネージャー 傍聴者：1人		
議 題	報告事項 (1) 令和4年度図書館事業実績報告（6～7月分）について 協議事項 (1) 令和4年度図書館部会の協議内容について		
決定事項			
公開又は 非公開の別	公 開	非公開の場合その理由（一部非公開の場合を含む）	
議事の経過	<p>1. 開会 あいさつ 高橋教育政策課長</p> <p>2. 委嘱状の交付 澤田けい子委員</p> <p>3. 議事録承認委員の指名について 第2回部会は倉本委員、澤田委員が担当する。</p> <p>4. 報告事項 (1) 令和4年度図書館事業実績報告（6～7月分）について（資料2） 【事務局】 それでは図書館事業実績について、6～7月分について指定管理者よりご報告いただきますが、前回会議で仲田部会長より、質問がありました①実施事業数と新規事業数、全事業のうち新規事業の割合（％）、③新規事業を企画した目的（利用者からの意見を取りいれて企画されたものか、スタッフ側の意見で企画されたものか）の3つについて、併せて指定管理者よりご報告いただきます。 【指定管理者】 まず前回会議でいただいた質問についてお答えいたします。一つ目の2021年度の新規事業数について、全体で行った事業の約5割が新規事業でありました。理由としては、コロナ禍でもできる密にならない事業に置き換えたため、新規事業が5割となりました。もう一つの質問の新規事業のうち利用者からの要望で実施した事業は3割弱となっております。ただし、利用者からの新しい事業への要望は少な</p>		

く、前回やった事業をもう一度やってほしい、継続してやってほしいといった意見が大半ですので、それを汲んだ事業となっております。2021年度の事業については、2020年度のアンケートなどで出た意見で、小説家を呼んだ講演会を行ってほしい、音楽コンサートを行ってほしい、あとは抽象的ではありますが子ども向けのイベントをやってほしい、ママ向けのイベントをやってほしい、小学生が参加できるイベントをやってほしい、といったものがありました。その中で密にならないもの、感染対策がしっかりできるものということで新しい事業を企画しております。2022年度につきましては2021年度以前の利用者アンケートも含めイベントでのアンケートの意見を活かして、1割強が新規事業です。新規事業が1割強は少ないように思われますが、先ほども申し上げましたがコロナ前に実施して参加者から好評だったプログラミング講座や布絵本講座などがまたやってほしいというご意見が多くありましたので、2年ぶり、3年ぶりで行う講座があるためです。2022年度に行う講座は継続と新規を合わせて5割以上が利用者の要望を反映したものとなっております。前回の質問に関する回答は以上となります。それでは6、7月の事業実績について、月報に沿って報告いたします。

<資料2について説明>

【部会長】 ただいまの説明に対しましてご意見、ご質問はございますか。

では、私が前回質問させていただいた立場で申し上げますと、新規事業をどういう理由で立ち上げたのかをお聞きしたのは、社会教育委員は議論して提言しかしていない、どこかへ行って活動する実働部隊の位置づけではない、理念づくりをしているというところから、我々の提言が図書館の中に組み込まれているのだろうか、実際の事業や展示に活かされているだろうかということをお聞きしたかったからです。今の話で、新規が50%、利用者の要望が30%あるということで、なかなか素晴らしい取り組みだと思います。率直な意見です。ありがとうございます。ほかの方はいかがですか。

【委員】 講座についてですが、これは図書館側から公募していますか。講座を開きたい人を募集していたりしますか。

【指定管理者】 いえ、図書館のスタッフが主に講師をしたり、布絵本などは町内で活動しているピーターパンクラブにお願いしたりしています。2021年度はピーターパンクラブに展示をお願いしたご縁で、講座の依頼をしました。また、おはなし会ボランティアの方にも講座はどうでしょうかというお声かけもしています。

【委員】 こういう講座をやりたいというのは募集してはいないのですか。たとえばしおりを作るワークショップをやらせてください、とかこういう企画をしているので図書館で開くことはできませんかというような申し出はありませんか。

【指定管理者】 そういう申し出は現在、受けてはいないです。

【部会長】 持ち込み企画ということですね。保育園の方とかに相談したらいろいろできそうですね。

【事務局】 さむかわ音楽ひろばの方からは図書館の事業と連携できないかと、お声かけいただきました。回想サロンで今度、音楽演奏をしていただきますよね。

【指定管理者】 はい、そうです。

【委員】 場合によっては実施できるということですね。

【指定管理者】 イベントではないのですが、展示では町役場の高齢介護課と町民窓口課と連携して、介護や自殺予防、アルツハイマーといった展示は情報をいただき、一緒に本の展示やポスターやパンフレットの掲示をしています。役場の課との共同で実施はしております。

【部会長】 まさに今、下で展示していましたね。

【指定管理者】 現役中学生のおすすめの本という展示は、寒川東中学校で今年2月に図書委員がビブリオバトルを実施した時に、図書館スタッフが中学校に出向いたご縁で、図書館の本で他の中学生に勧めたい本はないかという話題が出て、実現した展示となっています。

5. 協議事項

(1) 令和4年度図書館部会の協議内容について

令和5年度県社会教育委員連絡協議会地区研究会の事例発表内容の検討について事務局より説明

【事務局】 それではご説明させていただきます。前回6月の図書館部会では来年の地区研究会での事例発表にむけて、今年、来年の図書館部会で協議していくことを確認させていただきました。その中で、どのようなことが発表テーマとできるかいくつかご提案をいただきました。本日、机上配付させていただきました資料3に、前回の出たテーマ案を記載しております。これまでの部会で協議してきたことのまとめを基に肉付けしてはどうかのご意見がありましたので、前回も当日配付資料でお配りしておりますが、あらためて資料4-1と4-2が過去の部会での協議事項のまとめとなります。前回の会議では、①令和3年度の図書館部会の協議テーマ「総合図書館を拠点とした子どもの読書活動支援について」を再構成、②コロナ禍での図書館活動について、③コロナ禍での子どもたちのために図書館でできること、④寒川町の独自性がある図書館活動について、⑤0歳児から本に親しむ環境があることについて、⑥学校での読み聞かせ活動についてといった意見をいただきました。本日は、前回の部会でご提案いただきましたこのテーマ案のほかに新しい提案があるかどうか、出された全ての案の中からテーマ選出、方向性をご協議いただきたいことを事務局から提案させていただきます。

【部会長】 ただいま事務局から説明がありましたが、令和5年度の地区研究会の発表テーマについて、前回の会議で出てきた意見が資料3にあります。その中で6つの案が前回出ておりました。本日は、この他に委員の皆様から別の発表テーマの案がありましたらご意見を出していただき、出されたすべての案から発表テーマの選出と方向性を決めていきたいと思っております。それではまず、発表テーマについて新しい提案がありましたら発表お願いいたします。いかがでしょうか。

意見が出ないようなので、指名をします。是枝委員、いかがでしょうか。

【委員】 私は前回話したとおり、子ども達の活動がいいと思っております。

【部会長】 わかりました。ありがとうございます。倉本委員はいかがでしょう。

【副部会長】 小学校の読み聞かせ活動について、コロナ以降再開した学校とそうでない学校がありますので、その辺りも足並みがそろってほしいということが希望です。

【部会長】 今回の発表テーマとはずれませんが、今後の希望なり、要望で出していくこと

が必要ですね。ありがとうございます。澤田委員は今回初めてですが、話を聞いていて、こんなことないかなというのがありませんか。

【委員】 自分の場合は活動の場所が学校、公園といろいろなところなのですが、とくに学校はまだ無理ですと OK がいただけないので、今、活動ができる場所は茅ヶ崎の里山公園が実演場所になります。それから長谷川書店が割と早くに読み聞かせ活動や紙芝居の実演を子ども達が来られるように再開しています。今後どうなるだろうか、また盛んになるといいなというのが切なる願いです。それしかありません。前回の会議は来られなかったのですが、今のお話で、なぜ同じ町内の学校で OK などとそうでないところのばらつきがあるのか、あらためて不思議に思います。学校や教育委員会はどうされているのかと思います。以上です。

【部会長】 ありがとうございます。教育委員会の皆さんではあるのですが、教育政策課なので、そのことについては事務局で持ち帰って頂いて、そういう話をさせていただいて我々の方にフィードバックしていただければと思います。

【委員】 できているところとできていないところがあるのが不思議でしょうがないです。すべての学校ができないのであればコロナが原因だと思いますが、そうでないのは学校長や親御さんがそう望んでいるからできないということでしょうか。そこが不透明なので残念だと思っています。

【部会長】 そういうことは事務局でフィードバックは可能ですか。

【事務局】 そうですね。前に P 連の会合でもその話題が出て、学校教育課長にお伝えをしたところ、やるなどは言っておらず、感染防止対策をとって、再開する方向で言っているようですが、簡単に言えば、校長先生がどう考えるかということになります。町内の学校も規模が一律でないので、児童生徒の数が多くて密になりやすい学校もあれば、そうではない学校もあって、現場の状況に違いがあります。また、校長先生がいいと思っても、現場の先生が反対という場合もありますし、その辺りでばらつきがでていようです。まもなく新学期が始まりますので、今のコロナの状況が下げ止まるかどうかで 2 学期の教育活動を各学校どうしていくかということを考えていかなければなりませんので、ご要望いただいている読み聞かせの活動についても状況を把握できたらとは考えています。

【部会長】 なにか活動の参考になるといいですね。それでは地区研究会の事例発表の内容に戻りますが、皆さんのご意見をお聞きしましたが、私も案を考えてきました。それをお配りいたします。

<資料配布>

【部会長】 より具体的な方がわかりやすいかと思いましたが、パワーポイントで発表に近いものを作りました。これを皆さんにやってほしいということではないです。この内容でどうでしょうという検討のための資料です。これを聞きながら、疑問に思うことがありましたら即座に質問してください。それではお話ししますが、このテーマに絞り込んだ内容というのは資料 4-1 と 4-2 にあるこれまで図書館部会で検討したことを私が作った資料に落とし込んでいます。2 ページ目をご覧くださいとわかりますが、この画像は図書館のホームページから引用させていただき、引用元を入れています。テーマは「本が大好きな寒川の子どもたちを育てるために」はまさに資料 4-2 にあるとおりで、サブタイトルを資料 4-1 にある「総合図書館を拠点とした子どもの読書活

動支援」としています。まさにそのまま、先輩たちが作ったものをこちらに落とし込みました。内容はすべて資料 4-1 と 4-2 の中にあるものになります。今、事務局にはお渡ししたのですが、2021 年度の事業実績と展示実績をまとめたら、年間 52 件実施しています。そのうち若年層の利用促進という事業は乳幼児、児童、YA などが 70% あります。展示実績は年間 103 件ですが、この中でいわゆる若年層関連というのは 33% になります。それなので、いわゆるイベントは若年層に重きを置いたやり方、展示は若年層ではなく、他のところに重きをおいている。先ほど館長もお話しされていましたが、科学道プラスの展示は、子どもと親御さんが一緒に来て見ているというまさに的を射た展示を実施されていることになります。そういうことを考えまして、このテーマ、この内容に絞り込みました。背景に関しては資料の 4-1, 4-2 にあるのでご覧ください。その中で一番大事だと思ったところは、家庭教育、社会教育、学校教育ですが、この切り口も資料 4-1, 4-2 にあります。家庭教育は多様化する家庭環境、社会教育は社会の持続的発展、学校教育は読書活動の推進という 3 つの切り口でテーマを選んで、さてどうしようかというのが次のページになります。各々の切り口に関して現状と課題、取組を皆さんと考えていきたいと思えます。子ども達が図書館へ足を運ぶ機会づくり、家庭教育：多様化する家庭環境ということで、小学校低学年までは両親や祖父母に連れられて来館することが多い、先ほどの科学道プラスのように事業と展示がマッチングしていれば集客できるということはすでに実践されています。それから 2-2 の図書館のイベントですが、子ども読書推進事業は社会教育に入ります。社会の持続的発展ということで、図書館の様々な事業の図書館まつりやわくわく読書マラソンといったものがございまして、これは一例ですが、こんなことをやっています、これからこういう課題があるから取り組んでいるという話に持っていければと思います。それから 2-3、読み聞かせ活動ですが、家庭教育、社会教育、学校教育のすべてを網羅するのがこの読み聞かせ活動になります。なぜかというと 0 歳児のブックスタートから始まり、公民館、図書館との連携、小学校での読み聞かせという 3 つの切り口で説明できればと考えています。次に事例紹介ですが、いままで取組ですとか課題とかお話ししましたが、実際に学校と図書館との連携ということで、児童生徒が図書に親しむ工夫は何をやっていますかということで、ここでは事例を 2 つ、図書館を拠点とした学習活動支援とジュニア司書制度、寒川らしさからいったら、ここに焦点を当ててはいかかかなと 2 つあげました。ここは皆さんで話を揉んでいただければと思います。最後にまとめですが、活動を振り返ってみて、本が大好きな寒川の子どもたちを育てるために何ができるか、何をすべきかやってきました。その結果、児童生徒が図書に親しむ工夫を我々が説明するのですが、実際にやってみて、こういうことが違ったというような反省と、やったけれども足りなかったという課題をまとめて、閉めるという流れでやると一つのテーマが起承転結で終わると思います。中身に関して私はほとんど考えていません。要は幹だけ作って、枝葉は皆さんの意見から作っていただければと思います。これが私の案です。紙芝居をやってらっしゃるとこういう起承転結が浮かぶと思いますが、まさにプレゼンテーションも同じで、私はこのように考えてみました。これには資料 3 に出ておりますコロナ禍での図書館活動、コロナ禍での子どもたちのために図書館ができることは入っていないです。これに関しては、はじめにか、反省点、課題に入れる方法がいいのではと思います。寒川の独自性がある

る図書館活動について、寒川らしさに関してはジュニア司書がいいと思って私はそれを取り上げています。学校での読み聞かせ活動は事務局から説明していただきましたが、どちらかという本日は欠席の大野委員に聞いてみるのもいいかもしれません。それを我々の事例発表にうまく取り込むのが個人的にはいいのかなと思います。以上が説明になりますが、質問をお願いします。

【委員】 現在、ジュニア司書をやっている図書館は県内では他にもあるのですか。

【指定管理者】 1日図書館員というのがありますが、ジュニア司書はかなり寒川オリジナルな活動だと思います。

【委員】 私の娘も今年参加させてもらっています。

【指定管理者】 そうでしたか。

【委員】 私が委員をやっているからではなく、偶然、広報紙を見て、子どもが夏休みに何かやりたいということで、ボランティアや料理教室などいろいろ申し込んだ中でジュニア司書にも申し込みをしたようです。今日は午前中にジュニア司書の活動があると言っていたので、自分も午後は図書館に行くよと話をしてきました。すごく楽しいと言っています。何が楽しいかを聞いたら、うまく説明はできないのだけれど、普段図書館に行くのがすごく楽しくなったと言っています。今まで知らなかったことを知れたし、なんで本にラベルが貼ってあるのかがわかったから友達に教えてあげるんだと言っていました。すごく良い取り組みだと思っています。それなので寒川独自といったらこれをあげたいです。

【指定管理者】 ありがとうございます。図書館見学などで普段見られないようなところも見てもらって図書館のことを知ってもらっています。

【指定管理者】 1日図書館員という事業を他の図書館でもやっているということで、寒川総合図書館では、図書館・文書館ツアーというものをやっています、他の館ではこのようにやっているかまではわかりませんが、私たちは朝8時半に出勤するのですが、子どもたちにも8時半に集合してもらって、朝の開館準備としてカーテンを開ける、ブックポストの処理もしてもらってどのような流れになっているかを体験してもらっています。ジュニア司書になるとラベルの意味であるとか、本にブッカーというコーティングをなぜするのかとか、本を大切に扱うというのは次の人が気持ちよく使えるように丁寧にあつかいましょうということを皆さんに伝えているんですよということを説明して理解してもらおう内容なので、それは寒川らしいと思います。もともと本が好きで、本のことを知りたいという子どもたちが来るとは思うのですが、さらに好きになってくれているなというのを感じております。

【部会長】 寒川らしくていいですね。

【事務局】 昨年度も部会の時に話が出たのですが、ジュニア司書は神奈川県では寒川が初めてだそうです。県外ではいくつか事例があるのですが、その場合は「こども司書」という名称で実施している場合が多いようです。当時、立ち上げた時の館長の話では「こども」というと低学年の印象がして、中学生でも参加できるように「ジュニア司書」という名称にしたと言っていました。直営最後の年の平成28年度に実施して、この活動で文科大臣表彰をいただいたこともあり、寒川としては大切にしたい事業のひとつです。指定管理者に運営は引き継ぎましたが、ジュニア司書については継続してやってほしい事業としてお願いをしています。ただし、ジュニア司書も対象とする学年

が高学年になることもあり、応募が少なく、参加者が集まらないところが悩みの種ではあるのですが、昨年はコロナで少なかったところ、今年は7名参加ということで良かったと思っております。ジュニア司書講座に参加した子どもたちが引き続きジュニア司書活動をしてもらうことでまた図書館について知ってもらったり、ジュニア司書を通じて、お友達や学校にも活動を広げてもらったりと、こつこつと続けていきたい事業です。

【部会長】ありがとうございます。私が案ということで説明いたしましたが、この案の方がいいよ、というものがありましたら是非ご意見いただきたいのですが、いかがでしょうか。

【副部会長】私のほうがいいよというのではないのですが、0歳児のブックスタートが読み聞かせ活動のページにあるのですが、寒川町ではブックスタートがもう10年ほど続いているのですが、7カ月の検診の時に、町が絵本をプレゼントしているので、そのためにボランティアを募っていました。検診では体重測定とか歯とか栄養のことが全て終わったあとに本を1冊プレゼントしますが、その時にこんな本ですという内容をお母さんや保護者の方にボランティアがお伝えしていました。コロナになってからボランティアの方はご遠慮くださいということになっていて、現在はどうかは私には知らないのですが、ブックスタートとして本をプレゼントすることは続いているのかもしれませんが、検診の保健師さんや、保育士さんが渡しているのであれば、本を開いて見てもらうまではやっていないのではないかと思います。本を渡して持って帰ってもらいますが、当初の活動と変わっているのかもしれませんが、それを確認しないと、読み聞かせ活動に入れるのはどうなのかなと思います。

【部会長】これは補足しますと、平成30年度、令和元年度の協議テーマから取っているので、現在の状況とは違います。現状については反省点や課題のところに入ると思います。それなので現在の状況がどうなっているかは重要なところになってきます。

【副部会長】私もそのことは気になっております。ボランティアとして登録していて、待っている状態なので再開してほしいと思っているのですが、ブックスタートについてはまだボランティアには入ってもらいたくないというのが現状だと思います。

【事務局】ブックスタートは教育委員会事業ではないもので、現状どうやっているか担当課に確認して、次回会議でお伝えいたします。

【副部会長】もう一点あるのですが、北部公民館のおはなし図書館という事業がありますが、これも最初はボランティアを募って、北部公民館に来る子どもたちに読み聞かせをしていました。子どもたちが読み聞かせの日に来るか来ないかわからない状態で待っていることはなかなか難しく、今はチューリップの会という乳幼児の子がいるサークルに向けて、夏休みの間に3日間、サークルの活動にあわせて30分ほど時間をもらって読み聞かせをしています。コロナで中断しましたが、昨年より再開しました。北部公民館の方は活動を応援してくれていますが、主催団体や学校によっては考え方が違います。再開を待っているボランティアはたくさんいると思います。

【事務局】そのことについては、町の方で一律の方針がないもので、担当課の考えで活動を中止か、再開かを判断している状況です。寒川の公民館はかなり早い段階で活動を再開する動きになっていました。町内でも他の部署ではボランティア活動は中断したままであるというのは聞いていますが、ボランティアさん自身がまだ再開は早いと

考えている方もいるようで、そのあたりが同じ意見に向かうのが難しいところもあるようです。コロナ生活も3年目になるので、ウィズコロナでなるべく活動は再開したいというのが、社会教育担当の思いではあります。子どもたちの1年というのはとても大きいので、何も楽しみがないというのは残念なので、子どもたちの活動はなるべく再開したいと思っています。学校によっても活動が違うというのは読み聞かせ活動でもPTA活動でも聞いていますので、学校によって活動が違うのはなぜですかということ役場に直接電話をかけてくる保護者もいますが、なかなか説明がしにくいところ。要望として、直接学校に意見を上げていくということも必要だと思います。再開してはどうですかという話はさせていただいたのですが、よく教育委員会がだめだといっているというように言われているようなので、決して教育委員会はそのようなことを言っているわけではなく、捉え方が違うことをご理解いただきたいとと思います。悩ましいところではあります。

【部会長】澤田委員はご意見いかがですか。協議テーマが事例発表に関する事なので。

【委員】 コロナに関して、うつるのは勿論困るのですが、ボランティア自身が保菌者とならないように気をつけるのも仕方がない、無理をしないことが鉄則なのかなと思います。どの活動にしても、このような会議もちょっと前まではしていなかったことですから、徐々にいい方向にいくしかないと思います。そのような場合にすぐ活動が再開できるように、私たちは少人数で勉強会は毎月続けております。小学校やほかの紙芝居の活動ができるようになったら、今の勉強が役に立つようになると思うような活動しかできていません。他の団体は再開したり、ストップしたり、そのグループごとの考え方があります。私たちは小さなグループなので勉強会は続けています。小学校で再開した時にはすぐ行けるように準備をしています。今はそれしか言えません。

【委員】 今のお話を聞いていると、自分は前回、軽い気持ちでオンラインでやったらどうですかと言ってしまいましたが、臨場感や生でやるのが大事だと感じました。

【委員】 コロナが始まった頃の何もできない時期はzoomも利用してみたのですが、やっぱり子どもたちがここにいる空気というのが大事です。紙芝居は子ども向けだと思われるのですが、大人にも1歳、2歳の子が見るような紙芝居をやってもOKなんです。やる側の気持ちは、大人に向けてやる時は変わります。子ども向けの紙芝居であっても相手がいると変わるもので、zoomではなく、紙芝居はやっぱり生でやるのが大切だと思いました。読み聞かせもzoomでやっているものもありますが、生にまさるものはないと思います。

【委員】 受け手の表情を見ながら変えていくということですね。

【委員】 倉本委員も読み聞かせをされているから感じると思うのですが、子どもたちが前にいると空気が変わりますよね。私は読み聞かせという言葉も以前は嫌いで、聞かせるというのが嫌だったのですが、今はイベントの名前として読み聞かせというのが定着しているのでいいかと思うようになりました。前は読み語りとかこだわっていましたが、もう日本全国それで通じているので、やはり臨場感のある読み聞かせ、紙芝居の実演が早くできるようになるといいです。

【委員】 読み聞かせと紙芝居の違いは、読み聞かせはお話を淡々と語り、鍵かっこの中は抑揚をつけずあまり演じないという、お話の中身を正しく伝えることだとすると、ある程度演じるということが入ってくるのが紙芝居になります。多分、紙芝居の方は

お客さんが実際にいることが気になると思います。お話を伝えるだけであれば読み聞かせは zoom でもできます。前に人がいないとしても話をちゃんと理解して相手に伝えるということはできると思います。私はやったことがありませんが。紙芝居の方はやっぱりお客さんが目の前にいるということを大事にしているので、そのあたりが違うと思います。

【部会長】 みなさん、いろいろなご意見お持ちなのですが、我々来年地区研究会で発表しなければならなくて、あと1年後に迫っています。その内容を決めたいです。皆さんに意見をもらったことはこの資料3に書かれています。私はこれを網羅はしていませんが、くみ取ったという資料を提出させていただきました。もしこれで行ってみようということであれば、これで行きますし、もうちょっと私たちが考えたいというのであれば、持ち帰って頂きますが、次が12月になります。あつという間に1年切ってしまいます。それはちょっと苦しいかなという気がします。これに足りないこと、またはこれはちょっと違うのではないかなというようなご意見いただけますか。私の案をベースにして考えていただくと来年の発表には間に合うかなと思います。自分で言うてはいけないのですが。

【委員】 この資料4-1が的確にまとまっているので、今までお話ししてきたことがここに出ていると思います。全然違う意見かもしれませんが3のところの図書館を拠点とした学習活動支援ということで、私は子どもたちの自由研究を見るのが毎年楽しみで自分も好きだったのですが、アナログで資料を集めて作るということが、ここにすればいろいろ資料があって調べられる、聞くことができるということがとてもうらやましいです。今もあれが宿題になっていることが嫌だという子もいると思うのですが、作品を見ると子どもたちが楽しんでやっているなということがよくわかって、そういう方に図書館がなっていることはすごくうれしいことだと思います。子どもがなぜだろうと感じる興味を伸ばすことに図書館が力を貸しているのであればいいことだなと思うし、子どもが寄ってきやすい環境だと思います。それなので自由研究はぜひ続けていただきたいです。楽しみにしています。

【部会長】 今のお話しだと自由研究を事例紹介に入れてはどうかというご意見でしょうか。

【副部会長】 はい。それともう一点ですが、企画展ではないのですが、大人に読んで欲しい絵本という企画がないかなと思います。これは大人が好きだろうという絵本がたくさんあります。これをどこかで取り上げてくれないかなと思います。

【部会長】 これはありましたよね。

【指定管理者】 はい、今年、南部公民館と共同事業で、図書館員2名が公民館に出向きまして、大人にすすめたい絵本ということで、読み聞かせとブックトークを行いました。テーマが安眠だったので、図書館員は安眠を誘う絵本、公民館職員はアイピロー作りをしました。その事業を今年実施しました。9月は図書館で実施します。大人に向けて朗読会だけでなく、絵本を紹介してほしいという声もアンケートでありましたので、企画しました。

【副部会長】 小学校で読み聞かせをして感じるの、5、6年生になると絵本を持っていくと、絵本はもっと小さい子が読むものと思われる感じがあります。大きな子や大人は手に取る機会が少ないと思うのですが、やっぱりいろいろ選んでいくと、こ

れは大人でないといこの言葉の裏側はわからないという絵本もあるので、これはぜひ見て欲しいという本があります。読み聞かせの企画に来た人はそれを知れるのですが、手にとれば借りてくれる人もいるのではないかと思います。

【指定管理者】 展示として一定期間展示するというのでしょうか。

【副会長】 イベントとして行うことももちろんいいのですが、書架に絵本が入っているとやっぱりわかりません。それなので、前に出ていたら手にとりやすいと思います。

【指定管理者】 複合展示は大人と子どもの両方対象にした展示となっていますが、その中で大人が読んでもいい絵本もありますが、もっと大々的ということでしょうか。

【副会長】 ぜひ大きな方に絵本を読んでもらいたいです。

【指定管理者】 大人になってもう一度読み返してみませんかということでしょうか。

【副会長】 もちろんそれでもいいですし、例えば絵の挿絵が和紙に日本絵具をつかっただにじみのある絵などもあり、これを見せている時にはわからないかもしれないと思うんです。お話もいいのですが、絵の具がこのように使われているのだということを見てもらうのもいいと思うので、手に取って見てもらう機会があるといいです。

【委員】 深いですね。私はそういう意識で絵本を見たことがなかったです。そういうものを本のポップで置いておくといいですね。

【副会長】 そういう本がたくさんあるんです。

【指定管理者】 おとなの読み聞かせでも、絵の筆の使い方を見てください、とか絵の細かいところにこういうものが描かれていますよというのがあります。今紹介したような本はまだ冊数が少ないので、ある程度集めることができましたら展示もやってみたいと思います。

【事務局】 ブックトークだとそのようなことも紹介されますか。

【副会長】 関連づけて紹介することもあります。3冊、5冊を見せて、一番大事なところを見せていくことありますが、難しいですね。

【指定管理者】 少し前に積み木の絵本というアニメになったものがあり、絵本としては児童コーナーにあるのですが、やはり子供には難しい、老夫婦のお話なので、年をとった今だからこそわかるという絵本もあります。そのような本を集めたいと思います。

【副会長】 以前、デザインの企画展示にガラスペンの本があって、私の好きなジャンルだったので借りてみました。目にする機会があれば手に取りやすいと思います。大人も子供もあの企画室は立ち寄りと思うのですが、ピンポイントの面白いものがあると楽しいかなと思います。

【部会長】 是枝委員は発表内容の検討についてご意見いかがですか。

【委員】 今あったような事例でいいと思います。図書館を拠点にして、図書館のイベントなどで潜在的に掘り下げる可能性があるというのがいいと思います。おそらくなんとなく図書館に来て、なんとなく本を借りているという層も多いので、深みのある知識をもらうだけで全然違うと思います。

【部会長】 逆に図書館の職員は司書が60%くらいいますので、利用者が司書をうまく使うということが必要ということでしょうか。ちょっとこれとは違いますけどね。

【委員】 自分のようなライトな利用者層でも全然いいと思うのですが。本を好き

	<p>な子どもたちを育てるといところで深みがあるといいと思います。受け手の方に予備知識がないので、そこを伝えるのが難しいですが。そういう取組を寒川ではやっていますということを発表してはどうかと思います。</p> <p>【部会長】私もずれてしまいますが、2021年度の事業をソートすると子ども向け事業はすごいです。元に戻りますが、研究テーマの道筋を本日つけたいのですが、澤田委員はご意見いかがですか。</p> <p>【委員】はい、もう大丈夫です。</p> <p>【部会長】倉本委員はいかがですか。</p> <p>【副部会長】はい、もう筋はこういうことだと思いますので、ひとつひとつを詳しくしていくのがいいのではないのでしょうか。</p> <p>【部会長】骨はこれでよろしいということでしょうか。是枝委員はどうでしょうか。</p> <p>【委員】骨はこれでいいと思います。先ほど出ていた話が全て出ていると思います。</p> <p>【部会長】私もそれを意識して作っていますが、わくわく読書マラソンとかちりばめてあるだけで、内容は皆さんのご意見で盛り込んでいければと思います。幹として色をつけていただければと思います。これでよろしいでしょうか。それでは私の案で12月までにもう一度見直してもらって、過不足、これを入れれば寒川らしさが際立つということを考えてきていただければと思います。よろしいでしょうか。お願いいたします。本日の協議についてはここまでいたします。</p> <p>6. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次回の部会の開催予定について 令和4年12月22日（木） ・ 県社会教育委員連絡協議会、県公民館連絡協議会関係 研修会（総合教育センター）8月29日（月）倉本委員・平本委員 地区研究会（愛川町）11月24日（木）森委員・仲田委員・是枝委員 県公民館大会（相模原市）1月20日（金）山口委員・堀委員 地区研究会（箱根町）2月15日（水）山口委員 ・ 第62回関東甲信越静公民館研究大会茨城大会 10/27・28 オンライン開催（10/28分科会で寒川町民センター発表） <p>7. 閉会 倉本副部会長</p>
<p>配付資料</p>	<p>資料1 令和4年度寒川町社会教育委員会議 図書館部会 名簿 資料2 令和4年度6・7月分図書館月報 資料3 令和5年度県社会教育委員連絡協議会地区研究会の事例発表内容の検討について 資料4-1 令和3年度図書館部会の協議テーマ「総合図書館を拠点とした子どもの読書活動支援について」 資料4-2 平成30・令和元年度図書館部会の協議テーマ「本が大好きな寒川の子どもたちを育てるために」 資料5 令和4年度寒川町社会教育委員会議日程（R4年8月16日時点）</p>
<p>議事録承認委員及び 議事録確定年月日</p>	<p>・ 倉本佳子 ・ 澤田けい子</p> <p style="text-align: right;">（令和5年1月6日確定）</p>

